越ヶ谷宿で
古典にふれよう

其の八

じょうるり
浄瑠璃宿で楽しむ

越ヶ谷版

大澤紺屋童子物語

紺屋の主人保名が狐を助けた晩 お紺という女が現れる。やがて二人の間に童子をもうけるが…。
時代を超えても変わらない親と子の物語。

歌舞伎「葛の葉」より脚色 竹本泉太夫 補曲 豊澤勝二郎

創作浄瑠璃「大澤紺屋童子物語」

歌舞伎の音楽　鳴物

古典義太夫「乱菊」

開演
①13:00～
②15:00～

6/1 土

令和六年度しらこばと基金事業

会場
越谷大澤香取神社集会所

料金
2,000円（中学生以下無料）

お問い合わせ・申し込み（※要予約、先着順）
joruri.koshigaya@gmail.com
080-3016-2255（竹本）、048-965-8536（高安）FAXも可

主催　越ヶ谷宿で古典にふれよう会
https://www.koshigayasyuku-kotenn.com

ホームページ　お申込

後援：越谷市・越谷市教育委員会・こしがやエフエム　協力：一般社団法人越谷テロワール、旧日光街道越ヶ谷宿を考える会

～演者紹介～

望月 輝美輔

邦楽囃子笛方。
11 歳より望月美沙輔に師事。
長唄三味線を杵屋三澄那に師事。
平成 25 年望月流宗派家元 望月太左衛門より輝美輔の名を許される。
社団法人 長唄協会会員。
平成 27 年度 青山財団奨学生
平成 28 年度 東京藝術大学 浄観賞を受賞
出演に大人計画 舞台「ゴーゴーボーイズ・ゴーゴーヘブン」、武道館、JAPAN EXPO 海外公演など。

福原 鶴十郎

歌舞伎音楽鳴物
幼少より父の手ほどきを受け、
18 歳より歌舞伎座や国立劇場などの
歌舞伎公演、舞踊会、演奏会に多数出演。
都内数ヶ所の他、地方にも稽古場を増やし後進の指導にあたる。
古典芸能を気軽に誰でも楽しめる
スクールを立ち上げたり、解説付の鳴り物レクチャーも人気で沢山の方に
小鼓や邦楽の魅力を伝えるイベントをし
精力的に活動している。

竹本 泉太夫

歌舞伎義太夫太夫
越谷市在住　１９５０年生まれ（京都出身）
１９８１年　国立劇場第四期竹本研修修了
１９８０年１０月　御園座　初舞台
「顔見世八代目坂東彦三郎襲名披露興行」
の『源平布引滝』実盛物語の烏鳴き
１９９１年　芸団協助成新人奨励賞
伝統歌舞伎保存会会員
重要無形文化財総合指定保持者
国立劇場研修講師
「越ヶ谷宿で古典にふれよう会」　代表

●「大澤紺屋童子物語」の解説

香取神社彫り物 越谷市有形文化財

香取神社本殿の北面下段の板壁に紺屋の作業の様子が彫られています。少し昔の越谷にも多数の紺屋があったそうです。或る日紺屋の保名は狩人に追われた狐を助けてやります。その晩に、お紺という女が訪ねてきて居ついてやがて童子までもうけます。そして正体が顕れて、お紺は大澤の杜へ帰っていきます。
親と子との別れがテーマです。
全体の構成は、歌舞伎の「葛の葉」から取っています。

●「乱菊」の解説

作 曾田眞理子

「道行しのぶの二人妻」前半部
故郷の信太の森へ戻る葛の葉の道中を綴った歌舞伎舞踊です。葛の葉は菅笠に杖を持ち
スッポンから現われ「添うに添われぬ」身を嘆き、童子に思いを馳せながら、
水に我が身を映して悲しみにくれています。

● 浄瑠璃（じょうるり）とは

浄瑠璃は三味線を伴奏楽器として太夫が詞章を語る音曲・劇場音楽である。
詞章が単なる歌ではなく、劇中人物のセリフやその仕草、演技の描写もを含み、語り口が叙事的な力強さを持つ。
このため浄瑠璃を口演することは「歌う」ではなく「語る」と言い、浄瑠璃系統の音曲をまとめて語り物と呼ぶ。
(Wikipedia より)

お申し込み上のご注意

お申し込みの際は、鑑賞ご希望者様の氏名、電話番号をお知らせください。
複数人数分お申し込みの場合も全員のお名前とご連絡先をお伺いします。
当日、マスクの着用、及び消毒などは求めません。お客様の判断に委ねます。
世情の状況により、内容の変更や中止の場合もあります事をご理解ください。

東武スカイツリーライン
（旧東武伊勢崎線）
北越谷駅東口より
徒歩三分
公共交通機関での
ご来場をお勧めします。

香取神社地図